



《伍太夫どん》2022年 作家蔵

# 住民参加型アートプロジェクト たろうつなぎプロジェクト成果展 たろうと ニッポン画わたし話

11月26日開幕

## 【プロジェクトと展覧会の概要】

つなぎ美術館では、アーティストと住民が1年から3年かけてアイデアを出し合い、展覧会などの表現活動を目指す住民参画型アートプロジェクトを2008年から実施してきました。2020年以降は新型コロナウイルスの影響により実行委員である住民が参集できない状況が続いたため、2022年度にニッポン画家のたろう氏を招聘して実施する「たろうつなぎプロジェクト」においては実行委員制度を休止して、プロジェクトの進捗に応じて住民に参加を呼びかける方法に変更しました。「たろうつなぎプロジェクト」では、たろう氏が津奈木町在住の高齢者から聞き集めた思い出を元につくったオリジナルの五つの“新しい”昔話の絵を津奈木町で使っていた古い襖に描きました。また、京都美術工芸大学の学生の作画協力を得ながら五つの物語を津奈木町を俯瞰した風景の中に描き込む水墨による屏風も制作が進んでいます。出来上がった襖絵と屏風は今回のプロジェクトのプロセスや過去の作品とともに11月26日に開幕する成果展「たろうとニッポン画わたし話」で展示します。

## 【アーティストプロフィール】

### たろう ニッポン画家



1974年、熊本県生まれ。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）美術学科日本画コースで学ぶ。在学中に、伝統日本画の技法をベースにした古典絵画に、ユーモアやパロディを感じさせる現代的な要素を加えた「ニッポン画」を提唱。2013年より秋田公立美術大学の准教授を務め、2018年から2022年3月までは母校京都芸術大学で准教授を務める。日本での展覧会やプロジェクトなどの活動をはじめ、企業とのコラボレーションや海外での活動も行っている。2007年の『VOCA賞』、2015年の『京都市芸術新人賞』など多くの受賞歴を持つ。京都市在住。

【プロジェクト名称】たろうつなぎプロジェクト 【プロジェクト期間】2022年4月1日（金）から2023年1月31日（火）

【成果展名称】たろうとニッポン画わたし話 【成果展会期】2022年11月26日（土）～2023年1月22日（日）

【成果展会場】つなぎ美術館 1・3階展示室

【成果展内容】新作襖絵5点、新作屏風1点、過去作品4点、“新しい”昔話テキスト5話、写真資料ほか

【アーティストトーク】11月26日（土）14:00～14:30 つなぎ美術館 1・3階展示室 要観覧料

【対談】たろう×石倉敏明（秋田公立美術大学准教授・芸術人類学）、12月11日（日）14:00～15:30、つなぎ文化センター、無料

【主催】つなぎ美術館（津奈木町）

【協力】熊本市現代美術館、島田美術館、特別養護老人ホームつなぎの里、特別養護老人ホームあけぼの苑、  
京都美術工芸大学、イムラアートギャラリー、UMMM、虚屯出版（カラクリワークス株式会社）

【助成】（公財）水俣・芦北地域振興財団

【観覧料】一般300円 高校・大学生200円 小・中学生100円 【観覧時間】10:00～17:00（入館は16:30まで）

【休館日】水曜日（祝日の場合は翌平日）

【問い合わせ先】つなぎ美術館 熊本県葦北郡津奈木町岩城494 TEL:0966-61-2222 www.tsunagi-art.jp

企画：楠本智郎 t.kusumoto@tsunagi-art.jp 広報：曾地啓介 press@tsunagi-art.jp